京城日報
朝刊
本日朝刊四頁
本紙定價一部金六錢　一個月金一圓廿錢　郵税一個月金拾五錢　外國送り郵税共一個月金四圓
廣告掲載料　五號十五字詰一行金一圓五十錢　場所指定料一行毎金二十錢以上増
印刷人　編輯發行人　[illegible]

我陸海軍精鋭部隊　珠江口上陸に成功す

大本營陸海軍部公表

【東京特電】大本營陸海軍部二十三日午後三時四十分公表＝我陸海軍精鋭部隊は緊密なる協力のもとに昨二十二日珠江口に進入し上陸に成功せる部隊は夕刻大角頭島を掃蕩虎門對岸に進撃せり、海軍艦艇並に飛行機は虎門方面の敵に猛攻撃を加へたり

大角頭島に上陸

【東京特電】大本營海軍報道部午後三時四十分公表

一、海軍艦艇は廿二日午前陸軍輸送船團を護衛し珠江口に進入、敵の抵抗を排除しつゝ複雑なる水路を突破して陸軍上陸舟艇を掩護嚮導し之を大角頭島に揚陸せしめたり、海軍艦艇並海軍航空隊は沿岸敵陣地を制壓すると共に猛烈なる防禦砲火を冒し終日虎門側鼻角方面の敵部隊に徹底的砲爆撃を加へ甚大なる損害を與へたり、尚珠江本流支流には沈船、防材、機雷をもつて構成せる數ケ所の閉塞線を認む

二、二十一日廣東方面において海軍航空隊が敵に與へたる損害は兵三千戰死、裝甲自動車トラックなど合せて百七十を下らず

武漢前線防衛要地　○○直前に肉薄す

【揚子江（大冶西方）[illegible]二十三日同盟】江南進撃部隊は一擧に長距離追撃戰をつゞけ二十三日夕刻武漢直衛の前衛防衛陣地○○陣地の直前に肉薄した

【九江二十二日同盟】江北進撃部隊は既に巴川の線を越え漢口核心を衝くべく驚異的速力で前進を續行してゐるこれに伴つて大部隊の撤退[illegible]たるものがある、卽ち十九、二十一兩日は七千の敵と交戰して徹底的打撃を加へ敵に一千二百の死體を遺棄して潰走した、これに對し我が方の損害は死傷數十名を出したのみである

【○○艦上にて二十三日同盟特派員發】黄州を突破した江上艦隊は引續き猛進に猛進をつゞけ破竹の勢ひで闕風水道の敵陣を突破し、二十三日朝黄州上流二十浬に進出、敵左岸の防衛線の最外廓線たる葛店下流に肉薄し壯烈な敵前掃海を敢行、敵は葛店より陽邏、西山鎭一帶を武漢最後の防衛線として必死の防備を施し兩岸の要所には多數の重野砲、高角砲を集中するとともに數段の機雷原を作つて必死の防禦線を形成してゐるが、闕風水道より漢口までは三十餘浬を餘すに過ぎず我が江上艦隊に敵都漢口を一擧に屠らんとの氣概に[illegible]てゐる

京漢線西方の敵　武漢より逃避か

【○○二十三日同盟】二十三日午前一時頃より十時四十分[illegible]

一、孝感、長江埠、應城街道を約七千の敵が西進中

一、沙洋鎭、應城西方を約三千が西進中

一、應城より京山に向ひ約七千が西進中

一、阜市より京山に向ひ約一千二百が西進中

一、京山より安陸に向ひ約一千五百が西進中

[illegible]による京漢線西方の敵の移動狀況次の如く何れも西進するもののみであつてこれは我が南下に備へんとするよりもむしろ早くも武漢より逃避するものと判斷せらる

漢口陷落を契機に　抗戰・守和兩派の對立尖鋭化

香港特電【廿三日發】廣東陷落と余漢謀の鮮やかな轉身は抗日戰線に一大波紋を投じ國府分裂か赤化かの岐路に逢着するに至つた、卽ち從來右顧左眄しながらも抗戰政策にひきずられて來た各地の停戰和平は、余漢謀の[illegible]に刺戟せられ、俄に活潑な活動を開始したが、滇、桂及び四川系の有力分子が停戰要望を公然表明し來つたことは勿論、福建軍内には停戰派が急激に擡頭し、また廣西、雲南、四川等の主席將領連は中央勢力の崩潰によりその位置を喪失することを危惧し反戰氣分を醸成するなどの一方、蔣政府の間斷なき脅威に曝されつゝあるもの、すでに重要なる國民黨の領袖林森、張群、何鍵等は、歐米派の孔祥熙等と聯絡しカー英大使の重慶入りに先立ち王兆銘を擁して盛んに和平氣分を撒布しつゝあるが、これに對し共產黨は朱徳自ら漢口に赴き蔣と會見する一方、オレルスキー・ソ聯大使は親ソ派要人を引具し西南各地を遊説、重慶に乘込むなど抗戰派と守和派との對立は各方面で尖鋭化しつゝあり、漢口陷落を契機として分裂するか、一歩手前で國府の改組を喰止めるか豫斷を許さぬが、その成行きは注目に値する

白雲、天河飛行場　敵自ら爆破す

【廣東二十二日同盟】廣東は疾風迅雷的皇軍の手に歸したが敵は潰走に際し自ら廣東の二大飛行場たる白雲、天河兩飛行場を爆破し去つた、天河飛行場は全く使用に堪へざる迄爆破し盡され白雲飛行場もコンクリート造りの滑走路を爆破飛行場一面に二百餘の大穴があけられ皇軍の手により鋭意修築中である

なほ新築[illegible]飛行場の中央滑走路は破壞されてゐたが、宏[illegible]飛行場は盛んに修備中の模樣であつた

敵武漢放棄を決意　重要建物爆破を命ず

上海特電【廿三日發】蔣介石は漢口を最後の陣地として防戰に必死となつてゐるが、廣東陷落と相呼應する我進撃部隊の猛進撃に最早武漢の大勢決せりと見て遂に放棄を決意し、支那軍撤退の際武漢の重要建物施設を悉く粉碎すべく廿日武漢衛戍司令部に爆破準備を命令した、なほ之と共に日本軍の急追を防止すべく武漢一帶に亙る江上に水雷を敷設すべく厳命し、既に海軍部はこれが敷設を開始した

【上海二十三日同盟】艦隊報道部によれば支那側は愈よ近日中に漢口上流の某地點において揚子江上に大仕掛のブームを設け江上の交通を一切遮斷することゝなつたといはれ、これがため宜昌にあつた英砲艦ペデレル號は本日までの旅客を早めて二十二日早朝急遽漢口に向け出發した

武漢を空襲

一、海軍江上艦隊は二十二日航空部隊と協力してよく溯江より頑強な敵野砲の攻撃を退け夕刻までには長前線闕風水道を突破、漢口の咽喉を扼する地點に到達せり

二、海軍航空部隊の二十二日における主なる活躍左の如し

（イ）山之上少佐の率ゐる○○機は漢口停車場を襲ひ待機せる貨車約百輛を發見、これに攻撃を加へて潰滅せしめたりこの爆撃により數ケ所より火災を起したるを望見せり

（ロ）棚町少佐の率ゐる一隊は武昌停車場を襲ひ、こゝにても待機せる列車貨車を發見、貨車三百輛に對し徹底的打撃を與へたり

（ハ）内藤少佐の率ゐる○○機の一隊は四川省梁山を空襲せり、同地には敵空軍が最後と頼む若干の飛行機隱匿しありたるにより我が部隊が同地上空に飛來するや、珍しくも廿數機の敵戰鬪機が上空に現はれて我が空襲部隊に挑戰し來りたる爲我が軍は敢然これと一戰を交へて俊その五機を擊墜し、更に地上にありし小型機四機、中型機四機を破壞、滿載全機無事歸還せり

黄柏山を突破

【新店廿三日同盟】二十二日午後六時半見部隊先遣挺身隊は河南湖北省境を劃する北部大別山ラインの最高峯、黄柏山の線を突破、山頂高く日章旗を掲げたのち贓敵を急追し湖北平野に向つて急進撃

良田（廣東南方十里）を占領

【廣東二十三日同盟】廣東占領後粤漢線に沿うて北上した小池、野副兩部隊は二十二日夜廣東を去る十里○○南方凡そ五里の良田を占領水陸兩用戰車二、トラック三〇、列車一を鹵獲した

進和（廣東東方十里）を占領

【廣東二十三日同盟】增城方面に西北進した○○部隊は二十二日夕廣東東方凡そ十里の進和を占領した

龍門縣城占領　西南方に進撃續く

【香港二十三日同盟】中央通信社河源來電によれば博羅より廣東省中部龍門に向ひ進撃した日本軍は廿一日龍門縣城を陷攻、守軍の一部は力下にこれを占領したその一隊は西南方に向ひ進擊中にあると言はれる――

【東京電話】大本營陸軍部二十三日午後一時半發表

一、さきに廣州東北方、横江墟上り龍門南側地區に急進せる我が江岡部隊は廣東攻略後更に北上せる部隊と遙かに呼應し依然西方に向つて前進中なり

二、増城方面の戰鬪における敵の遺棄死體は二千九百二十、鹵獲兵器は戰車、装甲自動車十五、輕機關銃二、迫擊砲十五、彈藥莫大にして我損害は輕微なり

江上交通遮斷

【上海二十二日同盟】漢口來電に[illegible]

反目深刻となり　失地回復困難　某廣東黨部要人語る

香港特電【廿三日發】廿一日脱出廣東を脱出、辛うじてモーターボートで澳門經由廿二日安香港に到着した某廣東黨部要人はすつかり自國軍隊に愛想をつかし、日本軍の軍紀嚴正なるを稱揚左の如く語つた

廿日廣東市内にあつた正規兵は前線に赴くのだと偽り北方に向ひ撤退を開始した、後は强の率ゐる我警備、壯丁隊、警兵等が治安維持に任ずることになつてゐたが逃亡者續出、廿一日午後二時日本軍が廣東近郊に現はれた際はいくらも殘留してゐなかつた、日本軍の行動が餘り神速なので裏面に奸漢の手引きがあつたと見る向もあるが、自分が知る限りではさうではない、たとへば惠州では『日本軍が來たから早く逃げろ』とふれ廻し混亂に乘じ掠奪を働き、その汚名を日本軍に負はせようとした支那敗殘兵もゐたが、日本軍の通過した地域に殘されてゐる住民は信頼し何等反抗的態度は見えず、かくて自發的に食糧や勞力の提供を申し出てゐるとのことで、支那官局の從來のやり方が命令的で抗日の立場に無理矢理に押込め民心を省察しなかつたことに原因するだらう、余の見るところでは軍は占領地域が擴大するにつれ攻防共に益々有利となるに反し、支那側は軍政と黨の反目が深刻となり失地回復は益々困難になると思ふ

廣東陷落の報に　獨伊官民絶讃　擧げて慶祝の意を表す

【ベルリン二十二日同盟】廣東陷落の報にドイツ官民は擧げて慶祝の意を表してゐる、新聞も日本軍の急速な進擊振りを『時計の如く規則正しく』とか『豫想外に迅速な勝利』などの見出しで大々的に掲載してゐる

【ローマ二十一日同盟】日本軍の南支作戰開始以來僅か十日間にして廣東攻略に成功したとの報道は逸早くローマに傳へられたがイタリー官民は廣東陷落によつて蔣政權が長期抗戰の命脈と頼んだ輸送線が完全に無力化した結果、漢口陷落も愈よ切迫したと見られ容共蔣政權打倒に邁進する日本軍當局の断乎たる決意に絶讃を送つてると全く愉快であつた軍事行動に驚かされたと共に非常に考へさせられるものも多く百聞一見に如かずの感を深くした

ベ前大統領　イギリスに亡命

【ロンドン廿三日同盟】ズデーテン問題の責を負つて辭職したチェッコ大統領ベネッシュ氏はプラハ市の一隅に隱棲、悲痛の日を送つてゐるが二十二日午前十時五十五分突如夫人及秘書同伴プラハからロンドンに到着した、ベネッシュ大統領はイギリスに亡命の地を求めてたものと解される

湖南省一帶を　十二戰區に指定　張治中を司令官に任命

【香港二十二日同盟】上海側情報によれば蔣介石は二十日付をもつて湖南省一帶に十二區を指定し張治中を同戰區司令官に任命、蔣は武漢防衛軍及湖南の豫備兵を撤退、岳陽、平江、瀏陽の各要地に移動武漢防衛軍の撤收と共に湖南省外守に當らしめその軍隊の移動完了と共に大本營を湖内省沅陵に移動するといはれる

躍進に驚く　吉野前商相入城

滿洲、北鮮視察中であつた前商相吉野信次氏は廿三日午前七時二十分京城驛着、穗積殖產局長等の出迎へを受けて入城、直ちに朝鮮ホテルに入り少憩、午前中朝鮮神宮に參拜の後學王職に伺候、午後は京城リンクでゴルフに興じたがホテルで次の如く語つた

初めての滿洲行きであつたが永らく商工行政に携つてゐた關係で各地の事業も夫々因縁深く知つてをり直接關係したものも多いのでこんなに育つて[illegible]たか

きのふ二議案を撤回　その他全部を可決　全鮮米穀大會終る

【木浦にて島元特派員發】全鮮米穀大會第二日は快晴に恵まれ廿三日午前九時より開會、直ちに議事に入り

◇議案第五號玄米重量制の實施促進方を再度當局に要望の件を上程、丸木、菱夕より提案理由說明、吉池技師より重量制採用に依つておこる利害得失、本府の方針を說明、採決に入り原案可決

◇議案第六號（九元提出）第十三（菱夕提出）

一、商品見本として內地へ送る農產物は營利性あるものと雖も第四種郵便として取扱方當局に要望の件

一、電信取扱時間を內地同樣延長方再度要望の件

を一括上程、丸元、菱夕、丸仁より意見の開陳あり、又內地業者より電信料引下げを熱望した、これに對し北尾木浦郵便局長より說明二、三の應答あつて可決

◇議案第八號（角フ提出）朝鮮に商業組合令施行促進方重ねて要望の件

議案には提出者たる角フより時局重大なる故に必要なりと力說、殖產當局より研究中との答辯ありて可決

◇議案第九號（菱夕提出）第十號の一（丸ナ提出）一、米穀檢査機構の整備に關して協會員の存立に脅威を來さざる樣善處方當局に要望の件

一、穀物協會員の擁益擁護に關する件

◇議案第十號の二（九仁提出）穀物協會員の擁益擁護に關する件は撤回

◇議案第十一號（丸ホ提出）を上程、丸仁特別氏より擁益擁護を要請、米穀課長より穀物の成行を說明可決

◇議案第十一號（丸ホ提出）籾檢查有効期限設定及要望の件は丸ホより從來の缺陷を指摘したる[illegible]に可決

◇議案第十二號（角フ提出）朝鮮總督府檢査に依る合格籾の水分程度引上方要望の件も同意味にて可決

◇議案第十四號（丸ホ提出）管內搬出白米檢査撤廢方要望の件

說明あり、吉池氏の答辯あつて可決、午前の日程を終へ正午休憩、午後一時より再開、議事續行

◇議案第十五號（丸元）不合格白米を更に區分表示方要望の件

◇議案第十六號（角フ・丸ホ）營業税を收益税に改正方重ねて要望の件

◇議案第十七號（丸ナ）各種制討保險率低減方要望の件

◇議案第十八號（穀協）滿洲栗斤量統一を其筋に要望の件

◇議案第十九號（丸ホ）穀物業者に對する所得税並に營業税は米穀年度に依り課税せらるゝ樣當局に要望の件

は何れも各提案者より夫々詳細なる說明あり、關係當局の說明ありて大々原案通り可決確定、午後三時より內地業者をも加へて協議に入り、朝鮮大豆取引改善其の他に就き協議を行ひ、午後五時終了、滄葉發議長、佐々木議長の挨拶あつて閉會、六時より齋藤部長の招待晩餐會に臨み、盛會裡に午後八時過ぎ散會した

【寫眞＝米穀大會全景】

日曜氣配（二十三日）

期米　掉下申込み多き模樣にて產地に比し定期の割安觀から押目買氣强く氣配手堅し

株式　戰局の進展と共に東新を中心に押目買氣强く一般に時局の展開形勢待ちに氣配强含み

大新八五三〇東新一五五七〇　鐘紡一五八五〇滿業七七八〇

人

◇辻本信一憲兵大尉（新義州憲兵分隊長）入城中廿二日午後歸任

東西南北

就任以來ずつと獨身生活を續けてゐる工藤鐵道局長、さすが非常時鐵道男として大陸鐵道の世帶を引きしめてゐる丈けあつてまづ鮮內鐵道網の貨地視察に馬力をかけてゐるが▲局長としても大先輩の大村滿鐵副總裁から『君、早く年を取らんけりや駄目だよ、僕のやうに早く六十の坂を越えるんだ、益々元氣が出て來るよ、だが年を取るといふことがむつかしいんでね』と意味あり氣な言葉▲この言葉の謎も解けたと見えて工藤局長の最近は凄い張り切り方で、『君、早く年を取り給へ、だが年を取るのは仲々むつかしいものだからねえ』とニヤリ〳〵【寫眞＝工藤鐵道局長】

遂に陷落せる廣東市街　機上撮影　航空便

麗人荘〔96〕

竹田敏彦作　伊勢良夫畫

【禁無斷上演映畫化】

梅雨近し（三）

『冗談なら、それでもいゝが、とにかく、もう一度考へてみろ』

水野は、ちよつと口を噤んだが

『それぢや、あの娘を生ませた父親は誰なのです。御存知なんですか』

『知つてゐる』

『誰です……』

『そんなことは、どうでもいゝおやないか』

『さうはゆきません……僕もあれほど納得した相手です。それを諦めないでは、あへ直すことはできません。僕、今度會つたら緋紗子さんに訊ねてみます』

水野は赤面して言つた。貞吉も困つて、

『馬鹿なことを言ふな……あの娘だつてそんなことを知るものか』

『おや、マダムに訊いてみます』

『そんな馬鹿なことをすると、益々纏きがとれなくなるぞ……』

貞吉は窘めるやうに言つたが、

『それより何うだ、千鶴子さんを貰はないか』

『千鶴子さん……』

水野は、やはり想像通りな父の言葉に、胸を弾ませたが、

『何うぢや……沼津の娘と比べて何處に一點の退け目もないぢやないか。まして、境遇は、段違ひだ。大原財閥の背景は、お前の將來にとつても大きな地盤だぞ。……』

『それから、もう一つ、お前に知らせたいことがある。千鶴子さんは沼津の娘と同じ學校を卒業してゐるが、卒業の成績は、千鶴子さんが一番で、あの娘は二番だ。お前は首席だと言つてゐたが、首席は千鶴子さんだよ』

水野は、はつとしたが、

『お父さんは、それを、誰にお聞きになつたんです』

『誰に聞くといふ譯もないが、實は先達つてお前と沼津へ行つた時に、お前が、あそこの娘を紹介して、此の春城北を首席で卒業したと言つたのを覺えてゐたが、大原さんのお話では、千鶴子さんも今年城北を首席で出たといふお話だ。わしは變な氣持になつてね、諦めひ

も揃つてお前の縁談の相手が、同じ城北を同じ年に、首席で出たといふ話に興味を覺えて、まあ、早く言へば、わしの心を決める占ひのやうな氣持で、どちらが眞個か念のために、學校へ照合してみたんだよ。ところが、あちらは二番で、千鶴子さんの首席が眞個だつたんだ。嘘だと思へば、學校へ問合せしてみろ……さうなれば、何の點から見ても、沼津の娘と千鶴子さん以上の候補者とは言へないぢやないか』

事實の眞相を知悉してゐる水野は、父の話を聞いてゐるうちに、

却つて反動的な同情が、緋紗子の上に湧上つて、身分のないために學校當局からまで、不當に扱ひをうけた結果が、こんな點まで影響して、彼女の前途を阻むかと思ふと、彼は今まで日一日と千鶴子の上にもそゝられてきてゐた親しみの感情も打ち碎かれて

『お父さん……それは大間違です』

『何が……』

『その事情は、僕がよく知つてゐるんです。今年の城北の卒業生の首席は、確かに緋紗子さんだつたのです。それが表面逆になつて、二番の千鶴子さんが首席譲りになつたのは、校長が大原家の金力の前に、良心を失つた結果なんです』

水野は、かう言つて、葉子の問題まで引出し、詳しく事情を説明した。そして

『實はお父さん』

水野は、紅潮した顔を、父の方へ向けた。

ラヂオ

廿四日（月）

第一放送

朝の部

- 午前六・二五　ニュース
- 六・三〇（東）支那語講座
- 七・〇〇（東）時報、今日の天氣見込
- 七・〇一（東）朝の修養　個人主義と國民道徳（二）　小林一郎
- 七・三〇（城）ラヂオ體操
- 九・三〇（城）氣象通報
- 一〇・〇〇（東）家庭メモ、料理獻立（鯛の岩石揚げ）同（ソノグミーム「鮮米のかゆ」手製）同（掛け燒賓・清津）日用品値段
- 一〇・三〇（城）非常時商店講座　戰時下の商店經營　川宮多鎮七郎
- 一一・〇〇（東）小學生の時間　一膝一一觀察話「秋の野山」　徳久智恵子

晝の部

- 正午（東）時報（城）室内樂　朝鮮ホテル音樂部
  - 一、薔薇の幻想　グライシンガー作曲　二、二つの前奏曲　ショパン作曲　三、メヌエット　ハイドン作曲　四、男の一生　ラハナー作曲
- 午後〇・三〇　ニュース・鮮魚値段
- 一・一五（城）家庭の時間（朝鮮語・釜山・裡里）婦人のための文學常識　咸大勲

漫談 動物愛護（後八・〇〇）

徳川夢聲

今回の事變に就いては、動物慰靈祭とも申すべき催しが行はれてゐる次第でありますが、これは誠に結構な事で、所謂科學化戰の盛んなる今日に於ても馬といふものがなくては矢張り戰爭は出來ません、從つて馬もまた東洋平和の聖戰に立派な戰功をたてゝゐる譯、騎兵とか砲兵とか輜重兵とか總て馬を扱ふ軍人さんの話によると先づ動物の中でこれほど可愛いゝものはないと云ひます、勇士と馬との情愛を物語る戰場の悲劇、美談或はユーモラスな插話などは殆んど無數に傳へられて居ります、又この事變には軍用犬も仲々活躍してゐるやうで馬と犬とは昔から人間に對して最も忠實な動物とされてゐますが……

夜の部

- 二・〇〇（東）小學生の時間「專賣局はどんな所か」　桝山保一
- 二・四〇（東）ラヂオ體操
- 三・〇〇（廣）婦人の時間　百萬一心　及川儀右衛門
- 三・二〇（東）教師の時間　我國の教育觀（一）教師のための讀方　百田宗治
- 四・〇〇　ニュース（氣象通報・釜山・清津）證券紹介
- 六・〇〇（大）お話（テキスト三一ページ）どうして出來たか〃（三）「支那の運河」　大阪府話教育研究會
- 六・二〇（東）コドモの新聞
- 六・二五（城）講演　國民體位向上の根本問題　醫學博士　顧岡存
- 六・五五（東）カレントトピックス
- 七・〇〇　ニュース・天氣見込
- 七・三〇（東）特別講演　明日から賣出す支那事變國債　大藏政務次官　經濟學博士　太田正孝
- 七・四〇（大）講演　事變と我國の國防商業　經濟學博士　谷口吉彦
- 八・〇〇（東）漫談　動物愛護　徳川夢聲
- 八・二五（東）浪花節　水戸黄門と孝子幸助　玉川勝太郎
- 八・五五（東）漫才　研究くらべ　香島ラッキー、御園セブン
- 九・一五（東）歌謡曲
  - 伴奏　東京放送管絃樂團　指揮　池讓
  - 三味線　豆千代
  - 同　豊吉
  - （一）…　小友
  - （イ）獅子の薬蔭で（ロ）戰線想へば（ハ）どうしようかい（三）中野忠晴
  - （イ）死線を越へて（ロ）パンチョーで唄へば（ニ）讃軍旗の歌（ハ）愉快な獨り者
- 九・四〇（東）時報・ニュース・ニュース解説・經濟市況・明日の番組・ニュース・地方へのニュース・戰况美談

第二放送

- 正午　獨唱と管絃樂（レコード）
- 午後一・一五　婦人の時間　成大勳
- 六・〇〇　お話　朴藤　成
- 六・三〇　週間情報
- 七・三〇　講演　安浩相
- 八・〇〇　唱劇　朝鮮聲樂研究會
- 九・〇〇　京城歌謡　黄順子
- 一〇・一〇　初歩國語講座（二三）宋今璇

あすのきゝもの

- 午前一〇・二〇（城）母の時間「母ごころの活動」婦人嫁風會々頭　林歌子
- 一一・〇〇（東）幼兒の時間　諸物語「カハイイ勇士」　ナカヨシクラブ
- 午後六・〇〇（東）幼兒童話　一郎君の慰問袋　東京童話クラブ
- 八・〇〇（東）浪花節　東天一
- 九・一〇（東）傳記物語　東京演藝能會

漫才（後八・五五）

研究くらべ

香島ラッキー
御園セブン

浪花節（後八・二五）

水戸黄門と孝子幸助

玉川勝太郎

特別講演

明日から賣出す

支那事變國債

【後七・三〇】

大藏政務次官　經濟學博士　太田正孝

明日から來月五日まで支那事變國債の郵便局賣出が行はれます。此の國債は今回の事變の戰費を調達するために發行されるものでありますから、銃後の國民は擧つて一心で國債報國をしていたゞきたいとおもひます。郵便局から賣出される支那事變國債には十圓券といふ小額面のものからありますして誰でも手輕に買へるやうになつて居ります。

當代一流 爭覇戰譜

香落　△六段　梶一郎
▲四段　加藤富久

【第二局】

（圖は△三二銀迄の局面）

▲四八銀 2　△四三銀 15　▲四六歩 20　△三四銀 4　▲一五歩　△四二飛 17　▲六八玉 2　△六二玉　▲七八玉

【持駒】△梶氏　なし

九	八	七	六	五	四	三	二	一	
香	桂	銀	金	王	金		桂		一
	飛					銀			二
歩	歩	歩	歩	歩		角	歩	歩	三
					歩				四
						歩	歩		五
		歩						歩	六
歩	歩		歩	歩	歩	歩			七
	角						飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

【持駒】▲加藤氏　なし

（持時間各七時間）　累計　梶氏　五十七分　加藤氏　三十六分

觀戰記　六段　飯塚勘一郎

熟慮の四六歩

上手不敵の作戰

東都の秋は爽やいで此處大成會の對局室にも、涼々たる季節の風が吹きよどんでゐる、これから棋士もいよく將棋に身を入れて、ジックリ指し得られる譯で、兎角夏の對局の如きは、暑熱の爲め妨げられ易い、即ち最も對局に力を入れて指し得る季節は、身心共に冴える秋の好季を措いて他にないと云つてもよい位で、蕭殺たる周圍の狀況に和する虫の音に、一種の哀愁を感ぜられる時、人間の頭腦は一汐思索的となる。即ち人間の通有性として、「悲しい時」又は「寂しい時」等は、何んとなく思索に耽り深くなる點から云つて、秋こそ最も棋士の實力の出る時節と云はねばならぬ。

又讀者各位が本を擴いて盤に對し、棋の研究をされるにも、此の季節が最も適當な時季ではなからうか、秋の夜長を「古今の名棋譜」に陶醉し、棋の三昧境に浸る此の趣味は、駒を手にする者ならでは味ひ得ない恍惚境であらう。

さて斯かる間に双方の駒運びは着々と進められ、加藤氏の四八銀から、一五歩迄、下手方攻勢、上手方守勢の定形陣となつたが、右の手順中下手四六歩に、何故加藤氏が殊更苦しんで二十分の考慮を拂つたか？要は四筋と一筋と相呼應して、香落の缺陷衝擊に出る意味の着手であるが、順序としては、一五歩を先にすべきであるだけに、そこにこそ、加藤氏の警戒陣が張られてゐる。即ち同氏の陣中を覗けば、此の四六歩に依り五四銀と出る手段を採用する場合が往々にしてある故、先づその應手を窺ひその出様に依つて一變化に備へやうと云ふのが、下手方警戒の四六歩である。これには當の梶氏が無雜作に三四銀と上つたから、加藤氏の不安は先づ解消した次第、然し攻めを得意とする梶六段が、依然強硬作戰たる四二飛の手段に出た以上、此の將棋どうしても一波瀾は免かれまい。普通穩健な三二飛が上手の常套的策戰だが不敵な此の四二飛に、加藤四段はキッと梶氏の面上に眼を注いでゐる。はて雨となるか、嵐となるか、これからの戰鬪經緯こそ、まさしく猛將と闘將との一騎打ち、力と力の白熱戰である。